

## Stramonium チョウセンアサガオ [精神錯乱]

*Datura stramonium* L.

*Datula tatula* L.

### BACK GROUND

Stramoniumは、高さが約1mになるナス科チョウセンアサガオ属の1年草です。もともとは、南米と西アジア原産と言われていますが、現在では世界各地に自生しています。



(A)

茎は直立して、多数の分枝を出して、滑らかで光沢があります。初夏から初秋にかけて白いラッパ形の花を咲かせます。花はアサガオに似ていますが、まったく別の種類の植物です。実は、棘が密生し、成熟すると4裂して扁平な種子を多数散布します。

*Datura Stramonium*の由来は、いくつかあり、サンスクリット語の *dhustura*、アラビア語の *datura* に由来すると言われています。もともとこれらの言葉は、薬を飲ませて金品を奪う古代インドの盗賊、*dhatu-reas* からきています。命名者のリンネは、あまり野蛮な名称をつけるのを好まない人でしたが、この言葉の中にラテン語の *dare* 与えるという意味が隠されているので、承諾したとの逸話が残っています。この植物は当時、性欲減退のときに与えられていたからです。種小名の *stramonium* は、由来が諸説あります。種子の形状から *struma* 腫瘍、または、ディオスコリデスがこの植物に命名した *strychnos manikos* の省略形、花の形からアラビア語の *tatorah* チューブに由来するとも言われています。

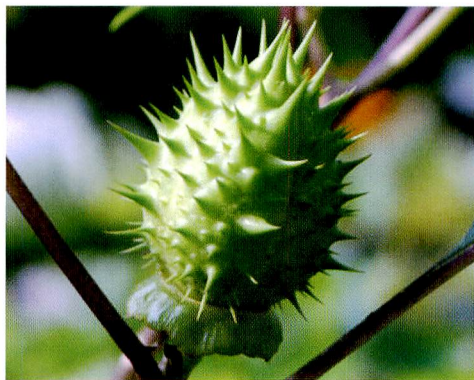
一般的には *Thorn apple*, *Devil's apple*, *Devil's trumpet*, *Stinkweed*, *Jimsonweed*, *Jamestown-weed*, *False castor oil* などと呼ばれています。*Thorn apple* の名は、この種が、トゲトゲのためです。*Stinkweed* の名は、この種が動物の嫌う臭いだからで

す。*Jamestown-weed* は、1676年に英国の兵士がアメリカの *Jamestown* に寄港中、この植物をサラダに混ぜて食べた事件で有名になったからです。日本では、チョウセンアサガオ、キチガイナスビ、トゲアリチョウセンアサガオなどと呼ばれています。

この植物の種には、幻覚作用があり、世界各地で医薬品や麻薬性精神変容薬として、幅広く使用されてきました。アメリカ先住民をはじめ各地の先住民族の間では、この植物をシャーマンの儀式に使用します。中国では、曼陀羅華と呼ばれ、心臓病、てんかん、風邪、皮膚病、精神病と幅広く使用され、麻酔薬の成分としても使われていました。日本では、江戸時代に渡来したとされ、華岡清洲が1804年に、この植物をトリカブトと並び麻酔薬「通仙散」の成分の1つとして使用し、乳癌の外科手術をしたことで有名です。アメリカでは、当初OTC薬として喘息の治療などに用いられていましたが、その幻覚作用から要指示薬に変更になり、パーキンソン病などにも使われています。インドでは、アーユルヴェーダの医師が、精神障害や脳障害、気管支喘息、排尿障害などに使用していました。また、興味深いことにインドでは、狂犬病の治療にも用いられています。

この植物の花と未成熟な実の部分には、各種アルカロイド、とくにヒオスチアミン、アトロピン、スコポラミンが含まれています。ハーブとしては *Belladonna* や *Hyoscyamus* と成分、毒性が似ています。

これらのアロカロイドは、副交感神経遮断作用があるため、頻脈、分泌系の遮断、腸管の蠕動運動遅延、瞳孔の調節障害を伴う散瞳、幻覚や興奮状態などの中



(A)



(A)

中枢神経系の作用などが起こります。またスコポラミンには、鎮静作用も認められています。

Stramoniumは、ごく微量の薬用量では副交感神経遮断作用のほか、鎮痙作用、筋弛緩作用、抗神経痛作用、抗喘息作用などがあります。高用量では、個体によってさまざまな感受性の違いが出ますが、一般的に非常に毒性が強くなります。

上記のような作用に加えて、神経毒作用が現れてきます。非常に凶暴な精神錯乱状態になったり、顔は紅潮し、瞳孔は開きます。泣きわめいたり、咬んだり、布や洋服を咬み裂いたり、支離滅裂なことを話します。症例によっては、笑ったり、楽しんだり、変な踊りを踊ったりと、静かな精神錯乱になる例もあります。恐怖を誘うような幽霊や動物が襲う幻覚を見ることがあります。痙攣が起こり、顔や肢の異常運動や体の半分が痙攣で、半分が麻痺といった症状もあります。舞蹈病のような症状も出ます。まぶしい光や鏡、日光が水に反射するなどで悪化します。太陽で頭痛が起こることもあります。恐水症になることもあります。夜暗くなるのを非常に恐れ、明かりを欲しがります。

頭部の充血により顔が紅潮し、暗闇でめまいが悪化します。激しい頭痛が起こります。頻脈となり、高熱が出ます。発汗しても楽になりません。

口腔内や咽頭部が充血して乾燥し、喉が乾いているにもかかわらず、飲物を飲むのを怖がります。飲もうとすると喉が痙攣してしまいます。激しい発作性の咳が出ることがあります。発疹が出ることがあります。これらの激しい症状にもかかわらず、頭痛以外にはまったく痛みを感じません。

## MATERIAL

この植物の花と未成熟な実の部分

## FIRST PROVING

ハーネマン (『Materia Medica Pura』第3巻)

## AFFINITY

Stramoniumは、主に脳、精神、神経（とくに脊髄、腕、腰、生殖器など）、循環系、筋肉、生殖器系に作用します。

## CLINICAL APPLICATIONS

このレメディは、とくに神経症状に使われます。このレメディに適応する疾患は、症状が激しいものが多いにもかかわらず、頭痛以外では、ほとんど痛みを感じません。また、とくに眩しく散乱反射する光が苦手です。社会的な犯罪や抗争、戦争などの増加により、このレメディの必要性はとくに子供において高まっています。

### ■急性熱性疾患

- ・高熱：はじめは体が熱く乾燥し、しだいに発汗していきませんが、発汗で楽になりません。顔は紅潮し、喉は赤く腫れ、乾燥します。高熱中とはとくに夜の暗闇を怖がります。手足が冷たいこともあります。Belladonnaの変動するタイプの高熱と比較して、Stramoniumの熱は持続性の高熱で、よりはっきりとした症状をもっています。

### ・熱性痙攣

### ・日射病

### ■神経症状

#### ・さまざまなタイプの狂暴性

- ・頭痛：激しい充血性の頭痛で、ズキズキ痛みます。顔も充血のために紅潮します。

- ・めまい：暗闇で悪化します。

### ・躁病

### ・双極性障害

### ・統合失調症

### ・チック

- ・急性の精神錯乱状態：幻覚や痙攣、舞蹈病様の症状などを伴うことがあります。

- ・舞蹈病様症候群：手足のふるえ、筋肉や腱のピクッとした突然の動きが見られます。

- ・恐怖症：死への恐怖、暗闇の恐怖のために、夜明かりをつけて寝ます。恐水症、1人になる恐怖—とくに夜と暗闇で1人になることを怖れます。動物への恐怖—とくに犬、その他の各種恐怖には、幽霊、病氣、反射する物、鏡などや閉所恐怖症、広場恐怖症などがあります。高熱時や精神錯乱状態では、幽霊や動物が襲ってくる幻覚を見ることがあります。

- ・神経障害：頭部外傷、ワクチン、恐怖、髄膜炎、脳炎などに起因する場合、心的外傷後ストレス障害

### ・嫉妬

- ・異常なおしゃべり癖や罵り



- ・多動症，行動異常
- ・言語障害，どもり
- ・性欲異常亢進：激しい性欲があります。いつも性器に触っている例も見られます。
- ・不眠症：夜の恐怖症によります。

#### ■呼吸器系

- ・咽頭痙攣
- ・喘息発作
- ・慢性気管支炎

#### ■消化器系

- ・下痢：甘い物を欲しがります。喉が乾燥します。
- ・激しいしゃっくり

#### ■その他

- ・斜視
- ・皮下膿瘍

- ・遺尿症：とくに恐怖を感じた後に起こります。

#### MODALITY

- 明るい光，散乱する光，仲間が傍にいること，暖かさなど
- 眩しく光る物を見ること，鏡，水面，恐怖，曇りの日，冷たい水，風，睡眠後，暗い部屋，触られること，1人で寝ること，太陽など

#### RELATIONS

- ・ Antidotes : Belladonna, Tabacum, Nux vomica
- ・ Antidoted by : レモンジュース，酢，タバコ，Belladonna, Hyoscyamus, Nux vomica, Camphor
- ・ Follows well : Cuprum metallicum
- ・ Incompatible : Coffea

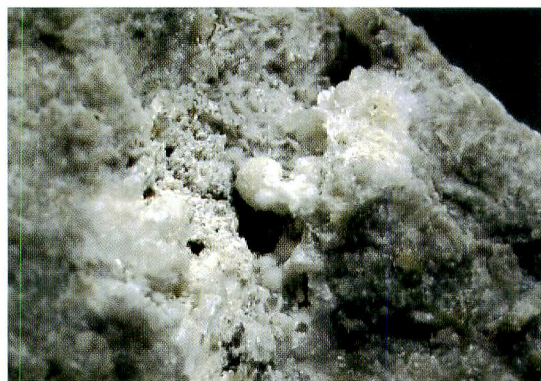
## Strontium carbonicum 炭酸ストロンチウム [手術後のケア]

SrCO<sub>3</sub>

### BACK GROUND

Strontium carbonicum は，化学式 SrCO<sub>3</sub>，分子量 147.63 の炭酸ストロンチウムです。

炭酸ストロンチウムは，白色微粒子で，主にブラウン管の蛍光膜，花火の赤色炎材料，フェライト磁石，セラミックコンデンサー，特殊ガラス，陶磁器釉薬，金属電解精錬などに用いられています。



ストロンチウム Sr は，原子番号 38，原子量 87.621，二族元素のうちでもアルカリ土類元素に分類されます。融点 769℃，沸点 1383℃，電気陰性度 1.0，密度 2.6g/cm<sup>3</sup> の軟らかい金属です。

ストロンチウム単体は銀白色金属で，1787年に発見されました。その後 1808年に，電解法を用いて金属ストロンチウムの単離に成功しました。ストロンチウムの名前は，スコットランドのストロチアン地方産出のストロンチアン石に，炭酸ストロンチウムとして含まれていることに由来します。

地球の表層部の近くでの濃度は，12番目になりますが，同族のカルシウムと比較してはるかに少ない量になります。主な鉱石には，セレストライト鉱やストロンチウム鉱などがありますが，他のアルカリ土類金属の鉱石中にも，ごく微量のストロンチウムが含まれています。

ストロンチウムは，毎日人体に 2mg くらいの量が摂取されています。同じ二族元素であるカルシウムの性質に近いため，生体内でカルシウムと入れ替わることがあります。

人体内では，ストロンチウムは骨，歯，大動脈などに分布します。99%は骨に存在します。骨に蓄積された場合は，3～7年くらい残留します。乳幼児の場合には，成人の約 7 倍近く，吸収蓄積してしまうという報告があります。

ストロンチウムの同位体の 1 つであるストロンチウム 90 は，ウランなどの核分裂の際に生じるものです。